

## 平成 30 年度 決算 の 状 況

平成 30 年度の日本経済は、7 月から 9 月にかけて自然災害の影響により一時的な落ち込みがみられたものの、世界経済の拡大や為替の円安基調に支えられ輸出が増加したほか、設備投資が堅調に推移し、また雇用・所得状況の改善などにより個人消費も底堅く推移するなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。

中長期的な視点でみると、特に地方においては、人口減少が進むなかで高齢化が加速し、医療や介護などの社会保障費の増嵩が、ますます財政上の重い課題となっています。一方で、AIをはじめとする技術革新は目覚しく、また令和 2 年度に開催される東京オリンピック・パラリンピック、本市においては令和 5 年春の新幹線開業によるインバウンド拡大・大交流時代の到来といった成長のチャンスも控えています。

平成 30 年度においては、引き続き市債の圧縮などの固定費の削減に努めるなか、平成 30 年 4 月に開学した公立小松大学への運営支援、末広・栗津キャンパスの整備、認定こども園への移行推進、企業との連携で進める観光・交流・人材育成施設の整備、梯川ボートハウスや小松市武道館などスポーツ施設の整備、あわづ おっしょべ広場 踊ろっさの整備、木曾町住宅の建替えなど、人口減少克服などの将来課題への対応、グローバルな大交流時代の到来を成長・発展につなげるための様々な施策を実行し、地方創生に向けて取り組みました。

歳入歳出性質別決算を前年度と比較すると、歳入では、業績回復による法人市民税の増額、雇用・所得環境の改善による個人住民税の増額、住宅需要の増加や大型商業施設のオープン等により固定資産税が増額となり、市税全体として 7.5%（約 11.8 億円）の増額となりました。また、エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設事業費の減により国庫支出金が 27.4%（約 28.0 億円）の減額となったほか、行政財産移転補償費などにより諸収入が 47.7%（約 2.8 億円）の増額となるなど、歳入全体としては 2.6%（約 12.6 億円）の減額となりました。

歳出においては、除雪費の減により維持補修費が 60.6% (約 4.4 億円) の減額、公立小松大学の開学に伴う交付金の交付などにより補助費等が 20.9% (約 10.3 億円) の増額、エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設事業費の減等により普通建設事業費が 16.4% (約 18.0 億円) の減額となり、歳出全体では 2.5% (約 12.0 億円) の減額となりました。

なお、各会計の決算状況は次のとおりです。

## 1. 一般会計

予算額 48,673,877 千円の内 1,151,437 千円を次年度に予算繰越し (繰越明許費 1,128,489 千円、事故繰越し 22,948 千円) し、決算額は、歳入 47,272,307 千円、歳出 46,566,202 千円で、繰越財源 183,153 千円 (繰越明許費 181,979 千円、事故繰越し 1,174 千円) を除いた実質収支額は 522,952 千円の黒字決算となり、その内 270,000 千円を基金へ積み立て、実質繰越額は 252,952 千円となりました。

## 2. 特別会計

### (1) 国民健康保険事業

予算額 10,702,665 千円に対し、決算額は、歳入 10,732,662 千円、歳出 10,603,752 千円で、実質収支額は 128,910 千円の黒字決算となりました。

### (2) 介護保険事業

予算額 9,893,714 千円に対し、決算額は、歳入 9,832,111 千円、歳出 9,563,964 千円で、実質収支額は 268,147 千円の黒字決算となり、その内 186,542 千円を基金へ積み立て、実質繰越額は 81,605 千円となりました。

### (3) 公債管理

予算額 9,478,100 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 9,168,225 千円となりました。

(4) 産業団地事業

予算額 280,900 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 231,229 千円となりました。

(5) 後期高齢者医療

予算額 1,488,628 千円に対し、決算額は、歳入 1,497,498 千円、歳出 1,463,283 千円で、実質収支額は 34,215 千円の黒字決算となりました。